

# Structure Kansai No.110 2011.7

JSCA関西ホームページに会員皆様の意見、質問に答えるコーナーを開設しております。ご活用下さい。

## 平成23年度(社)日本建築構造技術者協会関西支部支部総会 5月27日開催



関西支部 支部長  
「2011年度  
活動に向けて」  
(株)東畑建築事務所  
近藤 一雄

支部総会において2期目の支部長を務めることになりました。新体制での運営にご協力、ご支援よろしくお願いたします。

ニュージーランド地震、東日本大震災により建築の安全性に対する社会の関心はより一層高まっています。さらなる安全な建築の実現に向けて、前期に引き続き職能研鑽の充実を図っていきます。

また耐震強度偽装事件を契機に構造設計者の存在が社会に知られるようにはなりましたが、構造設計者の職能、構造的な性能についての社会の認識は未だに充分とはいえません。社会に対しての情報発信を積極的に行っていきたいと考えます。まずは、会員同士で「性能設計」についての議論を充実し、情報を共有することが第一と考えます。委員会、分科会活動がその場であり。委員会、分科会は限定された会員だけのものではありません、会員全員が、何れかに参加している支部になることを期待しています。

新保副支部長、前野副支部長以下新役員と共に、JSCA関西支部のいっそうの活性化に向けて努めてまいり所存でございます。よろしくお願いたします。



関西支部 副支部長  
「安全と想定外」  
(株)ネオフォルム構造技研  
新保 勝浩

角支部長と近藤支部長と共に関西支部の事業委員長として、2期4年の間、微力ながら務めさせて戴き、このたび、副支部長と言う大役を仰せつかり、不安と共にたいへん恐縮しております。二期目を迎えられる近藤支部長の支えとなるよう精進して行きますので、よろしくお願い致します。

さて、クライストチャーチのビル崩壊の耐震性の議論が覚めやらぬうちに、東日本大震災が3月11日に発生致しました。阪神大震災のような建物被害は無かったものの、想定外の地震動と津波、それに安全であったはずの原発事故により、甚大な被害をもたらしました。想定する地震動により、構造設計している我々にとって、想定外という言葉はとて重く感じました。関西支部では中央に先駆けて、阪神大震災を経験した技術者の思いを込めて、上町断層を初めとする直下型の大地震動の推定に取り組んでおります。あらゆる地震や事象に対する安心安全である建物は存在しませんが、我々は想定外を想定する地震動による構造設計で、社会により安心に近づく安全な建築物を提供できればと願っております。



関西支部 副支部長  
「設計用地震動」  
(株)竹中工務店  
前野 敏元

東日本大震災が発生してからすでに3カ月が過ぎました。今までは何気なく「想定外」との語を使っていましたが、使ってはならない単語のように扱われています。我々の身近には、長周期地震動をとともう南海トラフの地震が発生する危惧があります。特に南海地震は30年以内での発生確率が60%といわれています。さらに非常に大きな揺れとなる直下型地震も考慮しなければなりません。

自然科学者は真理の追求が役目であり、大地震の危険性を声高に叫びます。一方、我々設計者は建築物というものを実現することが役目であり、そのために設計条件である地震動を設定しなければなりません。設計用地震動の大きさを決めるにあたって、法の整備を待つだけの姿勢は許されません。「想定外」を意識しすぎることなく、我々設計者が自ら決めねばならないと考えています。

さて今回は、副支部長と同時に本部理事も務めさせていただきます。構造設計者の技術力が向上するように、関西支部と本部が連携を取り合い、近藤支部長、新保副支部長とともに活動いたします。よろしくお願いたします。

■構造デザイン発表会 優秀賞の紹介  
 既存高層建物の耐震性能向上を意図した  
 サウスゲートビルディングの構造設計  
 ～連結制震構造の採用～



株安井建築設計事務所  
 松本 孝弘

1. 連結制震構造の採用

大阪駅再開発プロジェクトの一翼を担うサウスゲートビルディング(旧アクティ大阪)計画は、大阪駅の南側玄関口としての駅前広場の整備、南北公共動線の整備、既存百貨店の拡張を目的とした建物増築計画である。この構造計画では次の3点を重点課題とした。

- ① 既設棟の現行法規への適合  
 (法令の遵守・耐震安全性の確保)
- ② 増築に伴う既設棟の地震力負担の抑止  
 (既設棟の基礎・杭等の補強の回避)
- ③ 既設・増築間のEXP.Jや補強による空間支障の最小化(有効面積の確保)

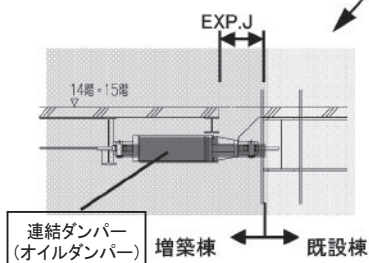
これらを合理的に解決する方法について、各種の視点から検討した結果、制震デバイスにオイルダンパー(連結ダンパー)を用いた連結制震構造を採用した。



写真1 四つ橋筋からの外観

表1 建物規模

	既設棟	増築棟
階数	地下4階・地上29階・塔屋1階	地下2階・地上16階・塔屋2階
高さ	119.0m	71.2m
建築面積	4,464.81㎡	2,655.00㎡
延べ床面積	133,206.15㎡	40,150.60㎡



2. 連結ダンパーの配置計画

連結ダンパーの仕様・配置は以下により計画した。

- ① 既設棟側の連結ダンパーの取付け位置は柱梁接合部とし、過大な負荷がかからないよう連結ダンパーの減衰特性にリリーフ機能を付与した。
- ② 連結ダンパーを14階、15階に集中配置した。
- ③ 連結ダンパーが水平面内の全方位に効果を発揮するよう建物の主軸に対して45°方向に軸心に向け、天井内で水平に配置した。

連結ダンパーの配置を図1に示す。連結ダンパーは既設棟の耐震補強部材であり、これを天井内に設置したことで、既存の店舗内やホテル内に耐震補強のためのスペースを確保することなく、既存棟の耐震性能向上を実現できた。また、時刻歴地震応答解析による検証から、2棟間の相対変位(棟間変位)の最大応答値は連結しない場合に比べ1/2程度となり、EXP.J寸法を抑え床面積を有効に活用することができた。

2000年の建築基準法の改正により、既存の超高層建物に増築を行う場合、その既存建物に対して現行法への適及が求められる。ここで紹介した建物は、補強による既存空間への支障がなく、既存の高層建物の耐震性向上を図り、現行法へ適及した事例である。

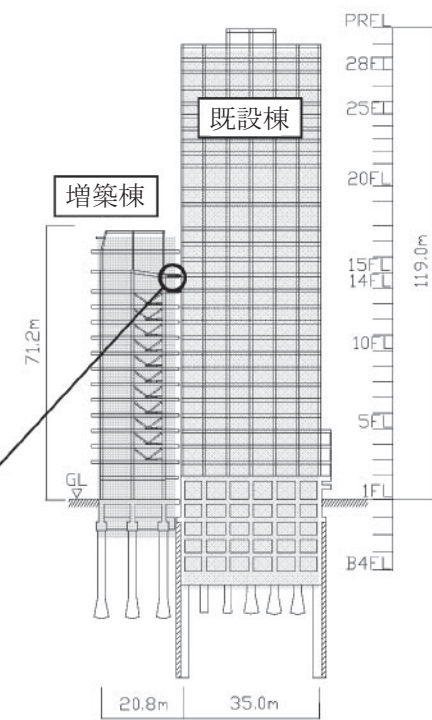


図1 連結ダンパー配置図

■構造デザイン発表会 優秀賞の紹介  
 tomarigi/梅田阪急ビル  
 スカイロビーベンチ  
 (デザイン: 福屋粧子)  
 満田衛資構設計画研究所  
 満田 衛資



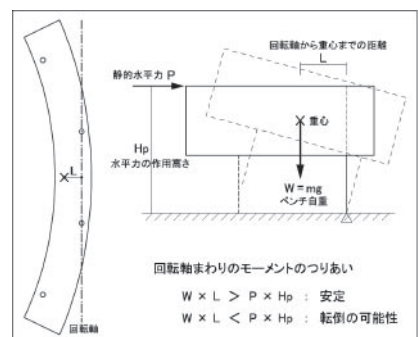
1. 作品概要

梅田阪急ビル15階スカイロビーのために作られたベンチ。ゆるやかな傾きと流れを持つ座面が、最小限の脚で浮かぶように支えられている。32cmから108cmまで高さが変わることで、座る・よりかかる・腰かける・テーブルのように使うなど、待ち合わせロビーでのさまざまな人の姿やふるまいを自然に引き出す。無垢のやわらかい質感のあるホワイトアッシュ曲面集成材のベンチは、とりま木のようにたたずむ人を待つ風景の一部となっている。



2. ベンチの構成

本作品は、断面寸法が幅280mm×高さ250mmで長さが約6900mm~12400mmの曲げ加工された集成材に、4本あるいは5本のステンレス製の脚を取り付けた、極めてシンプルな構成をしている。ベンチ幅280mmに対しては1箇所1本しか脚を取り付けないが、1体のベンチとしては座面および脚の配置を緩やかに曲げることで、重心を転倒軸の内側に位置させ安定させている。構造体でもある集成材はそのまま座面、肘掛、背もたれという機能になり、そのまま柔らかな表情の意匠となっている。構造と機能と意匠が完全に一致したベンチとなっている。

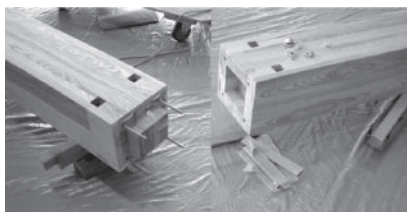


### 3. 制約条件

本作品の設計開始時点でロビーの建築工事は既に完了しており、①固定用アンカー等の床面に対しての施工が認められない、②ベンチの搬入経路として設置済みのシャトルエレベータしか認められない、の2点が設計上の大きな制約条件であった。

### 4. 自重による安定と振れ伝達接合ディテール

床へのアンカーができないため、重量物化(重さ320kg~580kg)することにより安定化させることとした。重量物化による抵抗とは、曲線梁の振れ剛性が大きいことを前提としているが、エレベータによる運搬という制約があり、部材を現場にて接続する必要があった。接着剤による一体化が基本だが、雇いさねと引きボルトを用いたディテールとし、接着効果の低下防止に配慮しつつ、ねじり剛性の確保に努めている。



### 5. 転倒に対する検討

重量物のため、転倒の発生に関しては細心の注意を払い安全性の確認に務めた。特に衝突等の衝撃力による転倒については、転倒に至る直前のベンチが重心位置において位置エネルギーをどれだけ獲得したかに着目し、その位置エネルギーを得るために必要な衝撃力を力学的エネルギー保存則及び運動量保存則から求めている。ガラス設計技術資料より、人の行動による衝撃力の諸数値を参照し、それらがベンチを転倒に至らせるものでないことを確認している。

### 6. 加力実験による確認/百聞は一見に如かず

以上のような理屈を我々エンジニアが生真面目に述べたところで「心配なものは心配」というのが一般人の正直な心理である。実際の作品を利用した大人数による加力実験を行い、転倒に対する安全性を皆で確認しあうことで、ようやくクライアントにもご理解いただけた。



## ■構造デザイン発表会 優秀賞の紹介 設・構・備の融合により実現した 浮遊する屋根構造



「清荒神清澄寺史料館」  
榊竹中工務店  
奥野 雄一郎

### 1. 建築計画

本建物は、端正な本瓦葺きの屋根の下に透明感のある回廊が配され、あたかも屋根が浮かび上がっているかのような外観デザインとなっている(写1)。

### 2. 構造計画

上記建築計画を実現するため、恒温恒湿空調を行う中央展示室に耐力壁を集約して構造体コアとし、この壁で鉛直・水平荷重全てを負担する計画とした(図1)。また、特に以下の3点に重点をおいて設計を行った。

#### ①基礎構造

本建物は耐力壁のスタンスが短くかつ屋根重量が大きい、地震時の転倒モーメントによる浮き上がり力が大きく、転倒に対する安全性の確保が不可欠となる。そこで基礎構造のスタンスを大きく確保し、それにより生まれた1階床下ピットに空調機械室を配置することで転倒モーメントに抵抗する計画とした(図3)。

#### ②屋根構造

本建物の寄棟屋根は人が寄り付きやすいように軒先を低く抑えており、天井懐が深い断面形状となっている。この深い天井懐を利用して跳出梁を設け、大きく跳ね出した重量の大きい軒庇を支えた(図2、図3)。また、跳出梁は先端を丸桁で繋ぐことにより軒先の変形を抑制し、優雅な「反り」を表現した(写2)。

#### ③ガラスファサードの実現

透明感のあるガラス回廊を実現させるためには構造体の鉛直・水平変位を予測し、ガラスの安全性を確保することが重要となる。FEM解析により算出した軒先・丸桁の弾性たわみをもとに最終たわみを予測した。美術品に対するアンモニアの枯らし期間であるコンクリート養生期間の8ヶ月間を利用して早期たわみを進行させ、躯体と仕上のクリアランスを最小限に抑える計画とした(図4)。地震時における本建物の変形角については、大地震時において1/1,500以下となるように中央展示室の耐力壁を計画した。上記変位量の予測により、安全・安心かつデザイン性に優れたガラスファサードを実現することができた(写3)。



写1 参道からみたファサード



写2 軒先の反り

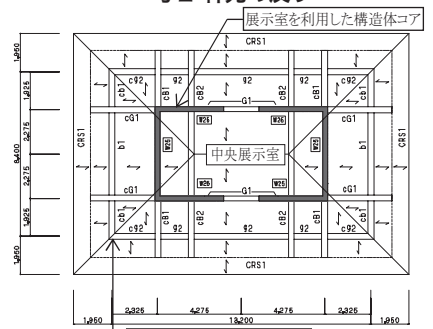


図1 1階見上げ図

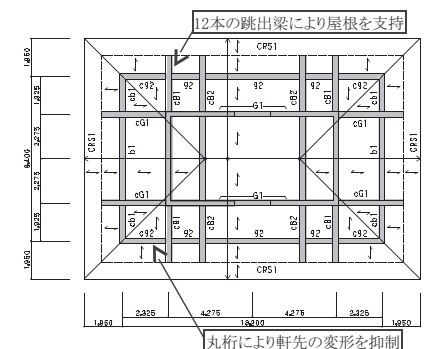


図2 屋根伏図

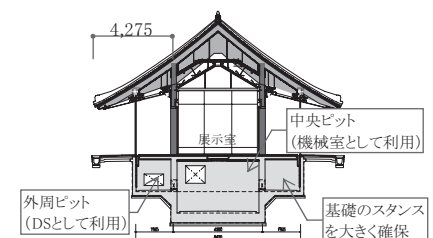


図3 断面図

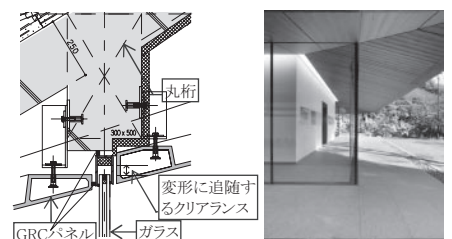


図4 サッシ周りのディテール

写3 軒先とガラスの納まり

## ■技術委員会所属各分科会の活動方針

前技術委員長代行 村上 陸太  
新技術委員長 安井 雅明

技術委員会各分科会は、分科会主体で2008年より構造設計ゼミナールを開催し多くの方々にご参加頂き、JSCA関西会員への情報発信・活性化の所期の目的は達したものと判断しております。本年からは、メンバー以外の方が分科会活動に直接参加できるような「拡大分科会」を各分科会で年1回程度開催し、分科会活動をより身近に感じて、理解を深めて頂きたいと思っております。そして、分科会活動要領をまとめ、拡大分科会と定例分科会を明確に定義する等、今後の分科会活動の指針としたいと思っております。今後とも分科会活動へのご理解と、拡大分科会活動への積極的なご参加をお願いいたします。

### □地盤系分科会 平川 恭章

本年度は地盤工学会との技術交流を主な活動方針としています。特に上期は7月6日に開催される地盤工学会技術者交流特別セッションでのテーマについて議論し、【基礎設計はこの10年でどう変わったか。そして今後どう変わるべきか。-JSCAと地盤工学会とのディスカッションを通じて見えてきたこと-】に決定しました。性能設計、2次設計、液状化検討地盤バネの扱い、設計者の役割などについて、土木分野と建築分野で比較し、両者の進んでいる分野、遅れている分野等を認識し、東北地方太平洋沖地震以降すべきことなどを抽出します。

下期はその内容について掘り下げ、今後の基礎設計のあるべき姿を議論したい。

### □RC分科会 嘉村 武浩

RC構造に関連するトピック(設計例の紹介、法令や各規基準の改正内容の確認、ひび割れ対策等)を各メンバーが紹介していくことで分科会員相互の構造設計技術に関する情報交換を行い技術力の向上を図ります。

また、RC構造に関連する材料や継手等の関連技術情報について、材料メーカー、製品メーカー等に来ていただいて説明会を実施し、設計者内部だけではなく外部のメーカー等との積極的な情報交換を行っていく予定です。

拡大分科会については、前述した外部製品メーカー等の説明会を複数回実施する予定です。

### □金属系分科会 島野 幸弘

当分科会では、構造設計・監理に役立つ金属系の最新の話題について、情報収集の場を提供しています。具体的には、メンバーや外部講師による最新の話題や情報の提供、鉄骨造の施工現場や材料メーカーの工

場の見学等を行なっています。また、分科会終了後は、有志の懇親会で、様々な情報交換も行っています。

今年度も同様の活動方針ですが、可能な限り分科会を拡大分科会として開催し、分科会メンバー以外の会員の方々にも参加していただきたいと考えています。秋には今、話題の東京スカイツリーの構造設計者を講師にお招きして、講演会を開催予定なので、気軽に当分科会にご参加いただければ幸いです。

### □耐震設計分科会 佐藤 隆志

本年度も、昨年までと同様に、テーマ(免震構造と制振構造・耐震改修)をもった作業所見学会を中心にして、出来るだけ多くの実例を現地で見ることにより、分科会員相互の構造設計力向上を目指すとともに、耐震改修の実例の勉強会も引き続き実施していく予定です。

また、本年から最先端の耐震設計関連製品について、製品メーカーに来ていただいて説明会を実施する予定です。

拡大分科会については、前記定例分科会のうち、製品説明会と見学会を1件程度、選び実施する予定です。

(予定)

見学会=北ヤード、A-PRO等

説明会=オイレス工業等

### □PC・工業化分科会 大住 和正

当分科会では、プレストレストコンクリート(PC)構造およびプレキャスト(PCa)工法等の工業化工法に関する設計例、研究実験例、耐震補強例を各会員で紹介・報告し、設計技術・施工方法・PC構造採用理由・コスト等様々な観点から討議・討論し、知見を深めるとともに、会員相互の設計技術レベルの向上を図っています。また、現場見学会を実施し、実物を見る機会を設けています。

今年度は、昨年末に実施されたEーディフェンスを用いたPC構造建物の振動台実験について情報の収集と展開を予定しています。また、東日本大震災によるPC構造の被害に関する情報の収集も行いたいと考えています。

### □木造分科会 梶田 洋子

2001年に当分科会が発足して、ちょうど10年が経過しました。当時の設立趣意書を読み返すと3つの目標を掲げています。①木造建築物の設計ができる構造技術者の育成、②一般市民や行政に対する、木造住宅の耐震性に関する技術提供および相談窓口の創設、③伝統構法を生かす耐震設計法の提案と普及。10年間、この趣意に基づいて活発に活動し、目標はほぼ達成できた

と考えています。今後は、これまでの活動を継続しつつ、設計レビューのシステムのさらなる充実を目指します。

現在、会員に今後の活動に関するアンケート調査を実施中で、要望をまとめ、新たな展開を計りたいと考えています。仲間となる会員を随時募集中です。

### □情報システム分科会 川端 淳

昨年までと同様に、その時々に合わせて建築業界における最新のテーマを題材に、各分科会メンバーがそれぞれ持ち合わせている情報を提供し、ディスカッションを行うことにより相互の技術・知識の向上の場としての活動を目指します。

なお、当分科会はその前身がコンピューター関連を題材としていましたが、現在はコンピューター関連のみではなく、建築業界全般を題材として取り扱っており、本年も幅広く議論をしていきたい。

拡大分科会については、分科会メンバー外の方にも積極的に参加していただきたいことから、皆さんに興味を持っていただける題材を設定し、1回程度実施する予定です。

### □構造法制分科会 楠本 隆

当分科会では、建築構造法制に関連するような様々な出来事について、各自が情報を持ち寄り、メンバー間へ水平展開して意見交換のうえ、それらの出来事から生じている法制面(広い意味もふくめて)での問題を抽出し、議論を行っています(最近では、ニュージーランド地震や東日本大震災で浮き彫りになった問題点などを主要なテーマに)。

さらに、建築基本法制定の動きに対応して、分科会としても、建築構造面を中心に、議論を深めていきたいと考えています。

なお、本分科会では、その性格上、現場見学会や実務計算研修のようなものを実施する予定はありません。

### □構造計画分科会 白髪 誠一

当分科会では、作品性の高い建築の構造計画や新しい技術・構法を用いた建築の構造計画についての設計事例を会員どうしで紹介し議論することによって、会員相互の知見を深めると共に設計技術の向上を目的としています。

本年度も、昨年までと同様に、設計事例の紹介を中心に行い、日頃の構造設計業務における様々な課題に対して、どのようなアイデアで解決していったかを議論したいと思っております。

「この建築の構造計画について紹介したい」、「あの建築の構造計画について話を聞きたい」といった意見がありましたら、積極的に取上げていきたいと思っています。

## ■JSCA関西支部2010年度事業報告

(2010年4月～2011年3月)

- 1.2010年度支部総会 5/13 建設交流館 出席者52名(委任状252通)
- 2.支部幹事会 4/13, 10/18
- 3.四役会 5/7, 6/8, 7/13, 9/14, 10/12, 11/9, 12/7, 1/11, 2/7, 3/8
- 4.事業委員会 4/6, 10/12
- 5.技術委員会 5/12, 7/7, 8/31, 10/20, 12/14, 2/15
- 6.広報委員会 4/15, 7/14, 10/13, 1/19
- 7.木造住宅レビュー委員会 4/7, 4/27, 5/7, 5/20, 7/27, 8/5, 8/19, 1/24, 3/11
- 8.耐震診断・補強判定委員会関西支部会 4/14, 5/19, 8/18, 9/8, 10/13, 11/10, 12/8, 1/20, 2/17, 3/17
- 9.定例研究会 5/13 建設交流館 構造デザイン発表会 参加者124名
- 10.新年活動報告会 1/14 建設交流館 JSCA賞受賞者講演 参加者100名
- 11.大阪府域内陸直下型地震に対する建築設計用地震動および設計法に関する研究会  
・専門委員会 6/29, 10/30, 1/22  
・幹事会 10/25  
・WG活動 WG1 6/5, 9/1, 10/18, 10/20, 10/27  
WG2 5/17, 5/28, 9/1, 9/6, 9/21, 1/17, 1/18  
WG3 4/23, 5/25, 6/24, 7/27, 9/6, 10/7, 10/19, 12/6, 1/12, 2/4  
WG4 4/22, 5/27, 7/13, 8/2, 8/17, 8/30, 9/13, 10/19, 11/30, 2/21  
WG5 4/28, 5/17, 6/1, 8/5, 9/7, 9/17, 11/4, 11/8, 11/15, 12/7, 1/7, 1/17
- 12.現場見学会  
・本町南ガーデンシティ 6/10 参加者50名  
・中之島フェスティバルタワー 3/10 参加者37名
- 13.構造設計ゼミナール  
・4/16 第15回「サブストラクチャの構造デザイン」 参加者41名  
・7/9 第16回「PC造を設計しませんか・Part2」 参加者43名  
・9/17 第17回「耐震診断・改修を知ろう」 参加者76名  
・11/5 第18回「新築建物を伝統構法による木造で設計しませんか」 参加者69名  
・12/13 第19回「構造設計者の挑戦」 参加者 52名  
会場は大阪科学技術センター
- 14.支部報  
Structure Kansai No.105,106,107,108発行
- 15.技術委員会各分科会  
・地盤系分科会 4/15, 6/17, 8/19, 10/21, 12/15, 2/17  
・RC分科会 4/26, 6/30, 8/24, 10/19, 12/3, 2/16  
・金属系分科会 6/1, 7/29, 10/5, 12/3, 3/1  
・情報システム分科会 4/23, 8/18  
・耐震設計分科会 4/16, 7/21, 11/26, 12/10, 3/11  
・PC・工業化分科会 4/13, 5/11, 6/4, 6/28, 7/9, 1/20  
・構造計画分科会 11/13, 12/14, 1/28  
・木構造分科会 4/7, 6/2, 8/4, 10/6, 12/1, 2/2  
・法制分科会 4/22, 6/14, 9/13, 12/6, 3/7
- 16.サテライト活動  
・奈良会 (活動なし)  
・兵庫会 (活動なし)  
・京滋会 12/3 学芸出版社3階ホール  
堀家正則講演会「関西の地盤構造と設計地震動」参加者24名
- 17.定期講習会  
・「新しい建築構造をめざして」 8/7 健保会館ホール 参加者 118名
- 18.講習会  
・「木造軸組構法の新しい耐震設計法がマスターできる実務講習会」  
4/7, 8/3, 9/8, 3/2  
・「JSCA構造設計若手実務者研修」 4/23, 6/18, 8/20  
・「JSCA実務者研修(応用編)」 3/4  
・「スキルアップセミナー」 10/6  
・「若手技術者育成講座」 2/3  
・「伝統的な軸組構法を主体とした木造住宅・建築物の耐震性能評価・耐震補強マニュアル」 3/11
- 19.親睦会  
・定例研究会懇親会 5/13 建設交流館 参加者 85名  
・賀詞交歓会 1/20 建設交流館 参加者 98名
- 20.研究受託  
・大阪市立大江幼稚園耐震性能耐震改修工事設計委託業務  
・「京町屋の限界耐力計算による耐震設計及び耐震診断・耐震改修指針」の改訂および印刷

・限界耐力計算による木造住宅の耐震設計レビュー

## 21.他団体への委員・講師の派遣

### 委員の派遣

- ・大阪市耐震改修支援機構
- ・神戸市「建築構造専門審査会」
- ・(財)日本建築総合試験所「各種構造審査委員会」
- ・(財)日本建築総合試験所「既存建築物耐震診断等判定委員会」
- ・(財)日本建築総合試験所「性能評価委員会」
- ・(財)大阪建築防災センター「大阪府公立学校施設耐震診断等判定委員会」
- ・(財)大阪建築防災センター「耐震改修評価委員会」
- ・(財)大阪建築防災センター「大阪府建築確認に関するアドバイザー委員会」
- ・大阪府建築士会「専攻建築士審査評議会」
- ・京都府建築士会「専攻建築士審査評議会」
- ・「伝統構法の設計法作成及び性能検証実証検討委員会」

### 講師派遣

- ・大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定養成講習会」
- ・大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定更新講習会」
- ・京都市都市計画局建築指導部「京町家派遣耐震診断士講習会」
- ・大阪府建築士会「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断・改修指針講習会」
- ・大阪府建築士会「既存鉄骨造建築物の耐震診断・改修指針講習会」
- ・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会」
- ・大阪府建築士会「建築士のための建築技術講習会」
- ・大阪府建築士会「建築士の実力養成連続セミナー」
- ・尼崎市「建築技術研修会」
- ・奈良県土木部まちづくり推進局建築課「構造関係技術基準講習会」
- ・奈良女子大学の非常勤講師

## 22.関連団体との交流

- ・建築関連14団体事務局会議 9/7
- ・建築関連14団体会長・支部長ご餐会 10/25
- ・建築関連14団体2011年新年交礼会 1/4

## ■JSCA関西支部2011年度事業計画

(2011年4月～2012年3月)

- 1.2011年度支部総会 5/27 建設交流館グリーンホール
- 2.支部幹事会 5/10
- 3.四役会 4/12, 5/10
- 4.事業委員会 4/26
- 5.技術委員会 4/15, 5/20
- 6.広報委員会 4/20
- 7.構造レビュー委員会
- 8.木造住宅レビュー委員会 5/12
- 9.耐震診断・補強判定委員会関西支部会 4/21, 5/19
- 10.定例研究会 5/27 「構造デザイン発表会」建設交流館グリーンホール
- 11.新年活動報告会 1月予定
- 12.大阪府域内陸直下型地震に対する建築設計用地震動および設計法に関する研究会  
・幹事会、専門委員会 5/21 西本町インテス
- 13.現場見学会 10月頃 中之島フェスティバルタワー、ダイビルウエスト
- 14.視察研修
- 15.支部報 Structure Kansai No.109,110,111,112 発行予定
- 16.技術委員会各分科会  
・地盤系分科会  
・RC分科会  
・金属系分科会  
・情報システム分科会  
・耐震設計分科会  
・PC・工業化分科会  
・構造計画分科会  
・木構造分科会  
・法制分科会
- 17.サテライト活動  
・奈良会  
・京滋会  
・兵庫会

## 18.講習会

- ・(仮)「設計入力を考える」
- ・「木造軸組構法の新しい耐震設計法がマスターできる実務講習会」
- ・「JSCA構造設計若手実務者研修」
- ・「定期講習会」 8/27
- ・「若手技術者育成講座」 2月予定
- ・「スキルアップセミナー」
- ・「伝統的な軸組構法を主体とした木造住宅・建築物の耐震性能評価・耐震補強マニュアル」

## 19.親睦会

- ・支部総会懇親会 5/27 建設交流館
- ・賀詞交歓会 1月予定

## 20.研究受託

- ・限界耐力計算による木造住宅の耐震設計レビュー

## 21.他団体への委員・講師の派遣

### 委員の派遣

- ・大阪市耐震改修支援機構
- ・神戸市「建築構造専門審査会」
- ・(財)日本建築総合試験所「各種構造審査委員会」
- ・(財)日本建築総合試験所「既存建築物耐震診断等判定委員会」
- ・(財)大阪建築防災センター「大阪府公立学校施設耐震診断等判定委員会」
- ・(財)大阪建築防災センター「耐震改修評価委員会」
- ・(財)大阪建築防災センター「大阪府建築確認に関するアドバイザー委員会」

- ・大阪府建築士会「専攻建築士審査評議会」
- ・京都府建築士会「専攻建築士審査評議会」
- ・「伝統構法の設計法作成及び性能検証実験検討委員会」

### 講師派遣

- ・大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定養成講習会」
- ・大阪建築物震災対策推進協議会「被災建築物の応急危険度判定更新講習会」
- ・京都市都市計画局建築指導部「京町家派遣耐震診断士講習会」
- ・大阪府建築士会「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断・改修指針講習会」
- ・大阪府建築士会「既存鉄骨造建築物の耐震診断・改修指針講習会」
- ・大阪府建築士会「既存木造住宅の耐震診断・改修講習会」
- ・大阪府建築士会「建築士のための建築技術講習会」
- ・大阪府建築士会「建築士の実力養成連続セミナー」
- ・奈良県土木部まちづくり推進局建築課「構造関係技術基準講習会」
- ・尼崎市「建築技術研修会」
- ・奈良女子大学の非常勤講師

### 22.関連団体との交流

- ・建築関連14団体事務局会議
- ・建築関連14団体会長・支部長ご宴会
- ・建築関連14団体2012年新年交礼会

# 2011年度支部役員及び委員

## ●幹事

支部長	近藤 一雄	(東畑建築事務所)	支部担当理事
副支部長	新保 勝浩	(ネオフォルム構造技研)	
副支部長	前野 敏元	(竹中工務店)	本部担当理事
監事	浦 巽利	(うらたつみ建築技研)	
	太田 健一	(鴻池組)	
	樫原 健一	(SERB)	
	小倉 正恒	(清水建設)	
	角 代 靖	(日本建築総合試験所)	
	田 代 幸彦	(日建設計)	
	辻 幸二	(鹿島建設)	
	平 松 豊	(三菱地所設計)	
	森 田 喜	(安井建築設計事務所)	
	松 村 夫	(松村構造計画)	
	増 田 廣	(エース構造設計事務所)	
	宮 崎 英	(山田建築構造事務所)	
	安 井 雅	(大林組)	
	横 田 友	(能勢建築構造研究所)	

監査	西 村 清志	(平田建築構造研究所)
	福 山 國夫	(防災科学技術研究所)

支部顧問	谷 尾 俊弘	(イオリ建築設計事務所)
	辻 英 一	(安井建築設計事務所)
	馬 瀬 芳	(馬瀬構造設計事務所)
	八 木 貞	(八木建築構造研究所)
	和 田 勉	(和田建築技術研究所)

事務局	阿 波 野 昌幸	(日建設計) 局長
	片 山 丈士	(竹中工務店)
	神 沢 宏	(鴻池組)
	佐 藤 啓	(大成建設)
	嶋 崎 敦	(大林組)
	塚 越 治	(日建設計)
	中 田 浩	(鹿島建設)
	石 原 邦	(JSCA大阪事務所事務長)

## ●事業委員会

委員長	小 倉 正恒	(清水建設)
委員	平 松 豊	(三菱地所)
	藤 井 正	(大林組)
	宮 崎 英	(山田建築構造事務所)
	村 上 陸	(竹中工務店)
	山 浦 晋	(安井建築設計事務所)
	横 田 友	(能勢建築構造研究所)
	湧 川 寛	(平田建築構造研究所)

## ●技術委員会

委員長	安 井 雅	(大林組)
委員	嘉 村 和	(日建設計) --RC
	大 島 住	(大林組) --PC工業化
	野 幸 弘	(竹中工務店) --金属系
	佐 藤 隆	(清水建設) --耐震設計
	平 川 恭	(竹中工務店) --地盤系
	端 淳	(構造計画研究所) --情報システム
	白 髮 誠	(北條建築構造研究所) --構造計画
	楠 本 隆	(安井建築設計事務所) --法制
	榊 田 洋	(桃李舎) --木構造

## ●広報委員会

委員長	田 代 靖	(日建設計)
委員	川 智 敏	(鹿島建設)
	越 金 田	(大林組)
	司 馬 勢	(KS構造設計事務所)
	白 沢 吉	(山田建築構造事務所)
	田 辺 太	(北條建築構造研究所)
	中 村 篤	(日建設計)
	平 石 浩	(鴻池組)
	柳 沢 信	(大林組)
	山 浦 晋	(イオリ建築設計事務所)
	山 根 一	(竹中工務店)
	吉 田 聡	(安井建築設計事務所)
		(竹中工務店)
		(日建設計)

## ●構造レビュー委員会

委員長	太 田 寛	(鴻池組)
委員	阿 波 野 昌	(日建設計)
	浦 巽 利	(うらたつみ建築設計室)
	樫 原 健	(SERB)
	片 山 丈	(竹中工務店)

近 藤 一雄	(東畑建築事務所)
新 保 勝	(ネオフォルム構造技研)
角 代 靖	(日本建築総合試験所)
辻 幸二	(鹿島建設)
永 谷 芳	(能勢建築構造研究所)
西 村 勝	(大林組)
福 山 國	(防災科学技術研究所)
北 條 稔	(北條建築構造研究所)
榊 田 洋	(桃李舎)
前 野 敏	(竹中工務店)
政 木 武	(フォルムふぉらむ)
宮 崎 英	(山田建築構造事務所)
森 田 秀	(安井建築設計事務所)
八 木 貞	(八木建築構造研究所)
安 井 雅	(大林組)
横 田 友	(能勢建築構造研究所)
吉 澤 幹	(日建設計)

## ●木造住宅レビュー委員会

委員長	樫 原 健一	(SERB)
委員	大 崎 修	(大崎建築設計事務所)
	小 倉 正	(清水建設)
	四 宮 忠	
	鈴木 直	(竹中工務店)
	野 島 千	(野島建築設計事務所)
	榊 田 洋	(桃李舎)
	横 田 友	(能勢建築構造研究所)

## ●危機管理委員会

委員長	八 木 貞	(八木建築構造研究所)
副委員長	前 野 敏	(竹中工務店)
委員	渡 辺 勸	(ラマ設計)
	近 藤 一	(東畑建築事務所)

## ●構造士更新講習会等評価WG

委員長	福 山 國	(防災科学技術研究所)
委員	樫 原 健	(SERB)
	近 藤 一	(東畑建築事務所)



## ●事務局だより

支部総会終了後の定例研究会では、今年で3回目となる「構造デザイン発表会」が開催されました。今回は、9件の作品が発表され、100名を超す参加者が集まり盛況でした。優秀作品を投票にて3作品表彰いたしました。

### 1.支部総会

5/27(金)13:30~14:45

### 2.支部幹事会

5/10(火)

### 3.四役会

4/12日(火, 5/10(火)

### 4.事業委員会

5/26(火)18:30~20:00

### 5.技術委員会

4/15(金)18:00~20:00

・技術委員会所属各分科会運営要領(案)について

・金属系拡大分科会について

5/20(金)

・2011年度各分科会活動方針案について

・STRUCTURE関西110号原稿について  
6月下旬(予定)

・技術委員長交代引き継ぎについて

・2011年度各分科会活動方針について

・STRUCTURE関西110号原稿確認

### 6.広報委員会

4/20(水)18:30~19:30

・Structure Kansai 110号 編集会議

・Structure Kansai 111号 企画会議

・委員の交代について

### 7.木造住宅レビュー委員会

4/7(木)10:00~12:00

・大阪市耐震改修支援機構幹事会出席

4/7(木)13:00~15:00

・大阪府建築防災センター適合性判定(木造)の取り扱いについて

4/12(火)14:00~17:00

・京都市・京町家診断士派遣事業及び京町家耐震マニュアル改訂打ち合わせ

5/6(金)17:00~19:00

・JSCA関西版木造マニュアルのJSCA関西HP公開に関する協議

5月12日(火)14:00~17:00

・京都市・京町家耐震マニュアル改訂最終打ち合わせ

5/31(火)17:00~21:00

・京都市・京町家診断士派遣事業及び京町家耐震マニュアル講習会

### 8.耐震診断・補強判定委員会関西部会

4/21(水)18:00~20:00

・熊本市施設の耐震診断判定の報告

5/19(水)18:00~20:30

・熊本市施設の耐震診断判定の報告

・防府市小学校耐震診断判定の報告

・市小学校耐震診断判定の報告

6/16(水)18:00~20:00(予定)

・耐震診断・補強計画判定の報告

### 9.大阪府域内陸直下型地震に対する建築設計用地震動および設計法に関する研究会

5/21(土)13:00~17:00

・第7回専門委員会

○WG1(地震動作成):なし

○WG2(解析法):なし

○WG3(RC系)

3/2(水)18:00~19:30

・設計指針(案)のまとめについて

3/22(火)17:00~19:00

・学会大会梗概原稿作成について

○WG4(S系):なし

○WG5(免震構造)

4/26(火)9:00~10:00

・structure原稿について

### 10.定例研究会

5/21(金)15:00~17:45

・構造デザイン発表会

5/21/(金)18:00~

・懇親会

### 11.支部報

・Structure Kansai No.109発行

### 12.技術委員会各分科会

#### ○地盤系分科会

4/28(木)18:00~20:00

・地盤工学会との技術交流会その2

5/30(月)18:00~20:00

・地盤工学会との技術交流会その3

6/16(木)18:00~20:00(予定)

・地盤工学会との技術交流会その4

#### ○RC分科会

4/5(火)18:00~19:00

・今後の分科会活動について

・構造設計トピック

6/7(火)18:00~

・構造設計トピック

#### ○金属系分科会

5/10(火)18:00~20:00

・新関西製鐵最新技術情報の説明と質疑応答

・金属系分科会の連絡事項

#### ○耐震設計分科会

6/16(木)18:00~19:00(予定)

・2011年度の耐震設計分科会活動について

・分科会運営要領と拡大分科会について

・免震制振建物の構造設計の紹介

7月中旬(予定)

・近年の免震構造について

・免震装置の紹介(オイレス工業)

#### ○PC・工業化分科会

5/19(木)18:00~20:00(予定)

・弘前大学インテリジェントビル紹介

・東日本大震災関連情報

#### ○木構造分科会

4/6(水)18:30~20:00

・3月11日(金)のJSCA関西マニュアル講習会の報告

・東日本大震災について

・木造倒壊解析ソフトの紹介 他

6/1(水)18:30~20:00

・主査、副主査の交代

・国土交通省官庁営繕部「木造計画・設計基準」について 他

#### ○情報システム分科会

4/13(水)18:30~20:00

・拡大分科会について

・東日本大震災の情報交換

#### ○法制分科会

5/11(水)15:00~17:00

・東日本大震災に関連して浮上しつつある建築構造法制上の諸問題について

の情報意見交換

6/24(金)15:00~17:00

・東日本大震災に関連して浮上しつつある建築構造法制上の諸問題について

の情報意見交換(続)

## ●編集後記

東日本大震災で被害に遭われた皆様に、謹んでお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

当震災は、甚大な被害をもたらした人類の無力さを再認識させられました。しかし阪神大震災からの復興を思い起こし奮起せねばと思っています。

お忙しい中、原稿執筆にご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

(越智・山根)

発行 (社)日本建築構造技術者協会  
関西支部事務局

〒550-0003

大阪市西区京町堀1-8-31(安田ビル)

Tel 06-6446-6223 Fax 06-6446-6224

Mail jscaweb@kansai.email.ne.jp

URL <http://www.mmjp.or.jp/jsca-kansai/>